

理科 第6学年 ●みんなで使う理科室 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「実験を安全に行い、結果を確かめ合うにはどんな準備が必要だろうか」について結果や資料を比べ、当初の説明を確かめ直して、より妥当な考えを表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。第3の2(1)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：この学年で使用する実物の器具と教師が作った配置図を見て、水溶液の性質を比べる方法、電気の量と器具の働きを調べる場面の危険や記録の不足を探す。実験前の点検、実施中に止める条件、片付けを器具に対応させて説明する。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。第3の2(1)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：注意するという抽象的な約束で終わらせず、何を見て、どうなったら止め、誰に知らせるかを書く。児童同士で危険場面を演じて再現することはしない 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。第3の2(1)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。止めるべき場面への対応を考える活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：学校の理科室の規程と器具説明書を優先する。薬品棚や加熱器具は教師が管理し、児童が無断で触れない実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、第3の2(1)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：この学年で使用する実物の器具と教師が作った配置図を見て、水溶液の性質を比べる方法、電気の量と器具の働きを調べる場面の危険や記録の不足を探す。実験前の点検、実施中に止める条件、片付けを器具に対応させて説明する。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全2時間は啓林館の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「実験を安全に行い、結果を確かめ合うにはどんな準備が必要だろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「実験を安全に行い、結果を確かめ合うにはどんな準備が必要だろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。安全の理由を実験と結び付けて説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

